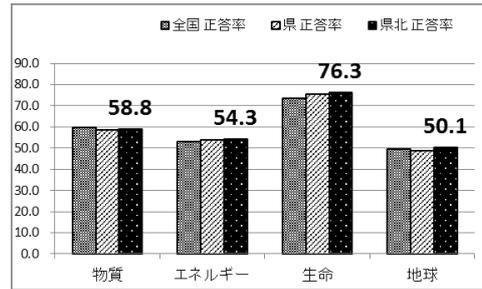


理科（小学校）

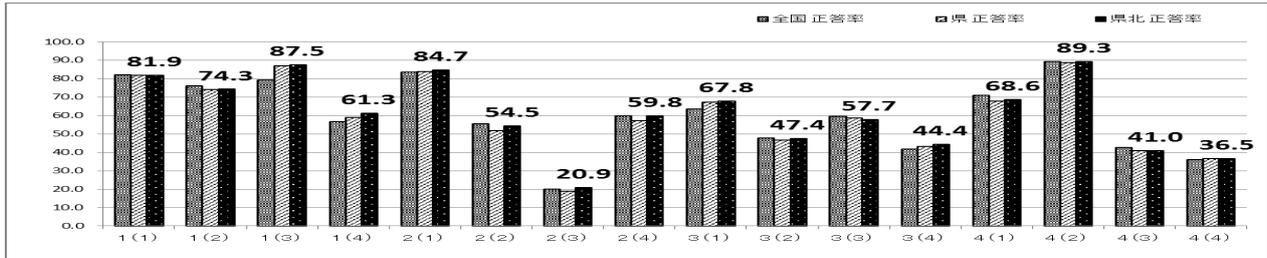
正答率	H30	全国比
県北	61	+0.7
県	60	-0.3
全国	60.3	

全国平均を 0.7 ポイント上回った。領域別では物質の領域は全国平均をやや下回ったが、他は上回った。

※ 領域別の正答率（値は県北地区）



【各設問ごとの正答率（値は県北地区）】



【結果】（課題として挙げた問題は、正答率の低い問題や過去に課題とされていた問題である。）

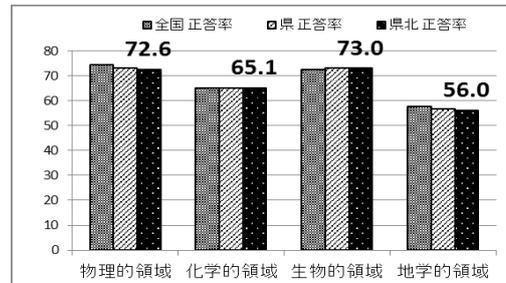
- 人の腕が曲がる仕組みについて理解し、模型に適用できている。[1](4)
- 基本的な知識を、実際の場面に適用できている。（乾電池のつなぎ方と電流の向き、太陽の高度による光の強さの違いと光電池での発電量）[3](1)(4)
- 調べた結果について考察する際に、問題に対応した視点での分析が十分でない。[1](2)
- 自分の考えと異なる他者の予想を把握し、その予想が確かめられた場合の結果を見通して実験を構想することに課題がある。（流れる水による土地の侵食 2）
- 実験結果を、原因と結果で捉える見方・考え方を働かせて分析することに課題がある。（流れる水による土地の侵食 [2](3)、 回路を流れる電流の向きと大きさ3）

理科（中学校）

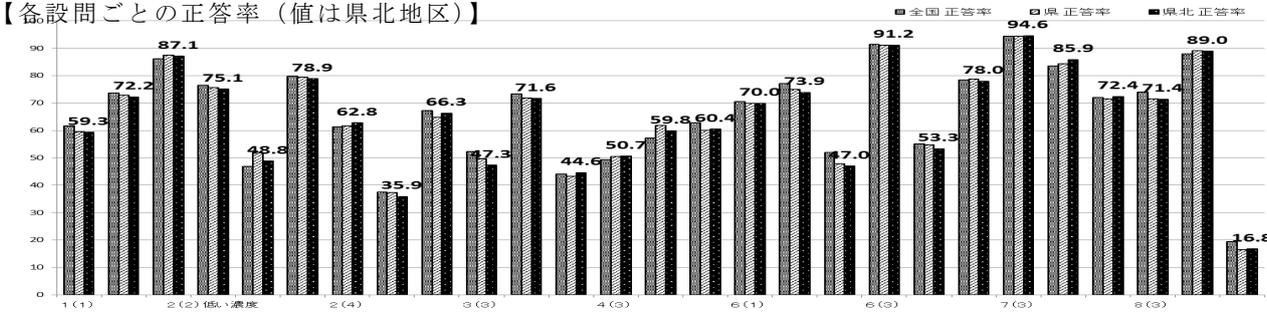
正答率	H30	全国比
県北	65	-1.1
県	66	-0.1
全国	66.1	

全国平均を 1.1 ポイント下回った。領域別では生物的領域が全国平均を 0.5 ポイント上回ったものの、物理的領域と地学的領域は全国平均を 1.8 ポイント下回った。

※ 領域別の正答率（値は県北地区）



【各設問ごとの正答率（値は県北地区）】



【結果】（課題として挙げた問題は、正答率の低い問題や過去に課題とされていた問題である。）

- 明るさに伴って変化する環境要因として、太陽光と熱の関係を指摘できている。[2](4)
- 原子の記号の表し方についての知識を身に付けている。[8](1)
- 日常の場面設定において、空間的な概念の形成が十分でない。（光の幾何光学的な規則性[1]、台風の進路予想と、ある地点での風向の変化[3]）
- 観測・実験結果を読み取り、それを基に考察することが十分にできていない。3、[9](2)
- オームの法則を活用して、電流、電圧、抵抗の値を求めることが十分にできていない。[6](2)